

令和5年度東京ヘリポート不法侵入事案 及びハイジャック事件対応訓練



東京ヘリポートでは、年に1回程度、空港施設における保安体制の再確認及び緊急事態発生時の対処方法など所轄警察署等と連携して保安訓練を実施しています。

今回は、12月6日(水)に東京湾岸警察署の協力のもと、通報訓練と実地訓練を行いました。

1 概要

訓練名	令和5年度東京ヘリポート不法侵入事案及びハイジャック事件対応訓練
実施日時	令和5年12月6日(水)13:30～16:00
場所	管理事務所内とエプロン内ホバリングエリア及び周辺スポット
主催	東京港管理事務所
協力	東京湾岸警察署

2 訓練のシナリオ

「ヘリコプターの騒音に日頃から悩まされている住民が、東京ヘリポートの制限区域内に侵入し、爆弾を設置。その後、ヘリコプターを要求し逃走を謀る。」という想定で、通報訓練と、実地訓練を行いました。ヘリコプターの騒音苦情の電話が去年と比べ増えていることもあり、かなり現実的で緊張感のある訓練となりました。

3 当日の様子

第一部 通報訓練

最初に管理事務所内で完結する通報訓練を実施しました。制限区域内に不審者が不法侵入したという無線連絡を受けてから、拡声装置で事業者に避難指示を行い、空港を閉鎖する手続きを行いました。その後、110番通報(模擬)や関係機関への連絡を行い、最後は警備員に不審者捜索の指示を出しました。



空港閉鎖を指示する職員

第二部 実地訓練

第二部では実際に不審者が制限区域内に侵入し、警備員と警察で制圧する訓練を実施しました。現地では実際に110番通報を行い、その様子を見学者にも見ていただきました。想像以上に犯人についての特徴や行動(年齢は?身長は?所持品



犯人を制圧する警察と警備員

は?今どこにいる?不審物の大きさは?見た目は?いつ不審物が置かれた?通報者の名前は?等)を聞かれ、通報を行った私たちは驚きました。また、不審者の制圧には委託業務を行っている警備会社職員と警察官が連携して行いました。不審者役としてご協力いただいた警察官は、迫真の演技で本当の犯罪者のように見える迫力がありました。不審者を連行後、設置された爆弾を防爆処理するため、警察官が防



防爆マットで処理する警察

爆マットを敷いて対処しました。私は防爆マットとはホバリングエリア全体を覆うくらい大きなものなのかと思っておりましたが、座布団サイズの小さなもので覆っていました。重厚な装備をしているとはいえ、その小さな防爆マットで爆弾に向けてじりじりと近づく警察官に、もしこれが本当の爆弾だったら怖いなと内心ハラハラして見ていました。

刺又、護身術講習

訓練が終了した後、見学者も含め、刺又の使い方と簡単な護身術について湾岸警察署の方から講習を受けました。最近、刺又が活躍する事件も発生しており、参加者はとても興味深く講習を受けていました。護身術についても、簡単な合気道の技で、もし不審者に腕をつかまれても、力を使わず振りほどく方法を教えてもらいました。体格差があっても通用するので、とてもためになりました。



東京ヘリポートでは、今後もこのような訓練を通して、事業者と緊急事態発生時の対応について、共通認識を深めるとともに警察等との連携強化をさらに強めて、不法侵入やハイジャックの防止、また実際に事件が起きて冷静に対応していきたいと考えています。

